

平成22年2月

杉浦公彦 学位論文審査要旨

主 査	小 川 敏 英
副主査	重 政 千 秋
同	西 村 元 延

主論文

The applicability of chimney grafts in the aortic arch

(大動脈弓部へのチムニーステントグラフトの適応の検討)

(著者：杉浦公彦、Sonesson B、Akesson M、Björnses K、Holst J、Malina M)

平成21年 Journal of Cardiovascular Surgery 50巻 475頁～481頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は大動脈弓部近位側におよぶ胸部大動脈瘤、胸部大動脈解離等の大動脈弓部疾患に対して、大動脈弓部からの分枝内への煙突状のステントないしステントグラフトの留置を併用した大動脈ステントグラフトによる治療法（チムニーグラフト法）の適応を検討したものである。その結果、チムニーグラフト法を施行した大動脈弓部疾患全例で頭部領域への血流を維持しつつ、大動脈ステントグラフト留置に成功した。本法による急性期の死亡や重篤な合併症率は低く、本法は破裂症例などの緊急時にも適用可能である。本論文の内容は、チムニーグラフト法による大動脈ステントグラフト留置が、手術に伴う合併症の低減や複雑な大動脈弓部病変の治療適応の拡大の可能性を示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。